

わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム
平成18年度文部科学省委託事業

ホームページ活用ガイドブック

平成19年 3月

周防大島町教育委員会

はじめに

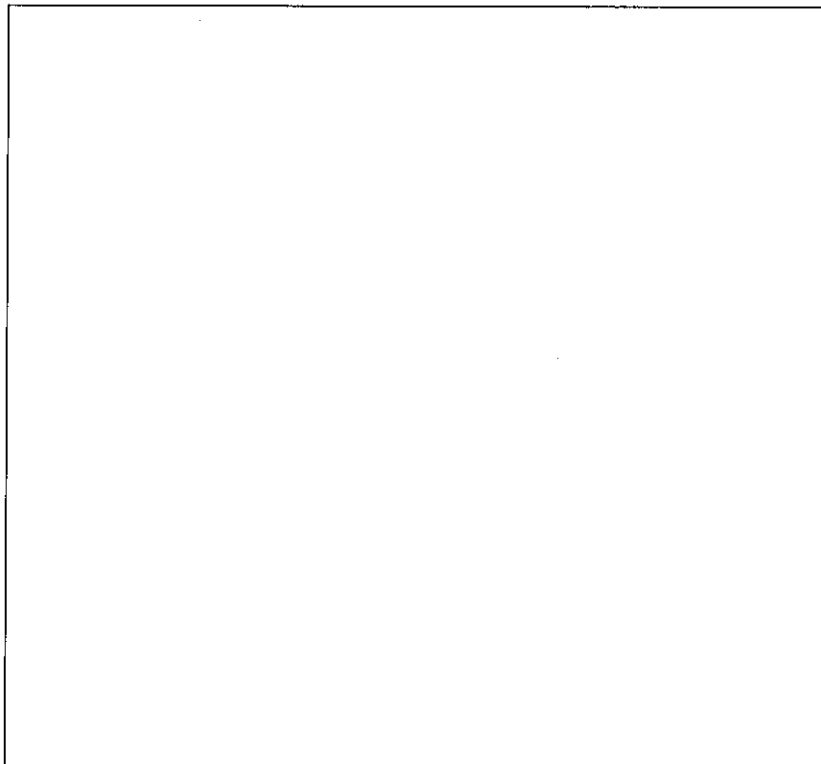
周防大島町教育委員会では、平成18年度文部科学省より委託を受け、初めて複式学級を担任する先生方にわかる授業の実現と、指導力向上をめざし、調査研究を進めホームページを作成しました。

このホームページには複式指導において、わかる授業を実現するための様々なコンテンツを用意しています。

そこで、このホームページを効果的に活用していただくために、利用ガイドブックを編集しましたので、このガイドブックとホームページを活用し複式指導を通した、わかる授業づくりに取り組んでいただければ幸いです。

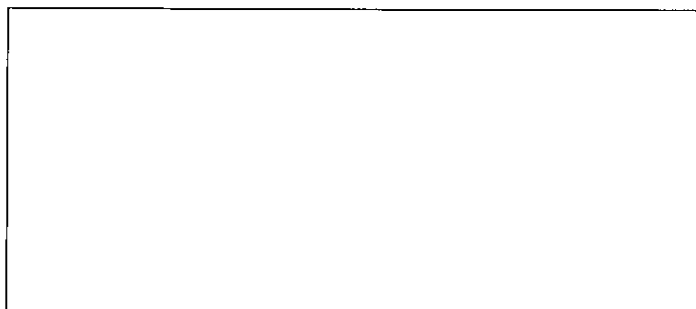
コンテンツの概略

コンテンツは、複式指導を充実するための21のキーワードと教室環境 機器の利用
実践編 指導案集の大きく4つの部分で構成されています。



- 1 わかる授業を実践するために複式指導の基本をおさえましょう。

最初は、複式指導がどのようなものであるかを理解するために「複式指導を充実するための21のキーワード」を掲げました。これらのキーワードは複式指導を進めていくためには是非理解して頂きたいものです。これら全体を理解することで、複式指導の概略をつかんでください。



キーワード1 複式学級の現状

平成18年4月現在、山口県全小学校数332校のうち、へき地指定校（特別地、準へき地地を含む）は45校で全体の13.6%になります。

またへき地以外の複式校は66校で全体の19.9%、へき地校と複式校を合わせた数は111校で全体の33.4%にあたり、山口県の約3分の1の学校はへき地複式校であり今後も増加する可能性があります。

へき地複式指導の充実は山口県にとっても大きな課題であり、この指導の充実は実際に担当する先生方の手にかかっています。

キーワード2 へき地性

キーワード3 小規模性

へき地性や小規模性としては、ホームページに記述している内容が一般的ですが、ここで重要なことは、長所・短所をはじめから決めつけて指導しないことです。良い面をしっかりと伸ばす指導が重要です。

ホームページに記載している内容を踏まえながら次の点を考えてみましょう。

- ・今勤務している子どもたちの良いところはどこですか？
- ・今勤務している地域の良いところはどんなところですか？

へき地・小規模の長所を伸ばす指導に心がけましょう。

キーワード4 複式学級

複式学級にはどのような特質があるかを理解しましょう。ここでも複式指導をマイナス要因としてとらえず、プラス面として考えていきましょう。

- ・複式学級は最初から自ら学ぶ時間が確保されています。
- ・複式学級には最初からきめ細かな指導ができる少人数体制が準備されています。
- ・複式学級には異学年が交流できる場面が用意されています。

この他にも、多くの複式学級のプラス面があります。プラス面を見つけそれを生かす指導方法を工夫してみましょう。

キーワード5 複式学級の授業

複式学級の担任となり、はじめて教室に入るとその机の数の少なさに驚くと思います。なんだか授業も人数が少ないと簡単にできそうな気がします、しかし実際にやってみると様々な問題点や課題が見えてくると思います。

ここにある、指導上の基本姿勢ア～エを常に念頭に置いて指導にあたってみましょう。

キーワード6 学年別指導

ここで言う学年別指導とは、3年生には3年生の学習内容を、4年生には4年生の学習内容を一人の教師で指導するいわゆる「複式指導」のことです。

複式学級において、学年別指導を実施するメリットは年間指導計画を作る際に学年別に単元を配列するとスムーズに計画立案ができます。

また、転出入があった時もそのまま対応できます。教科では「算数」「国語」が多くの学校で実施されていますが、「社会」「理科」等でも学年別指導を行っている学校が見られます。

しかし、指導面では一人の教師が二つの学年を指導するため、教師には「指導方法の工夫」が、児童には「自ら学ぶ学習態度の育成」が学年別指導を成功させる大きなポイントとなります。指導上の大きな課題が「直接指導」と「間接指導」となります。

直接指導の動画PLAYボタンを押し、授業の様子を見てください。この学級は1年生が4名・2年生が1名の学級です。

へき地校では学年1名というクラスも多くあります。

教師は1年生について直接指導をしていますので、1年生は「直接指導」を受けている又は直接指導時と言います。

直接指導の動画PLAYボタンを押し、授業の様子を見てください。

2年生は直接に指導を受けず、教師の事前の指示等で学習していますので、2年生のこの学習状態を「間接指導」または、間接指導時と言います。

一人の教師が二つの学年を指導することがイメージできましたか。このホームページの素材や指導案を参考に自分の指導方法を考えてみましょう。

キーワード7 同単元指導

学年別指導と異なり、複式指導を回避するために考えられた学習計画です。この指導方法は複式指導の形態をとらないため、教師の負担が軽減されますが、年間指導計画を立案する際に工夫が必要です。同単元指導は大きく「一本案」と「二本案」に分類されます。

キーワード8 同単元指導（二本案）

複式の授業研究会に行くと耳慣れない言葉がよく聞かれます、特にここで説明する言葉、「AB年次」は初めての皆さんには馴染みのない言葉と思います。

「本校では社会科と理科はAB年次をとっていますから・・・。」などのような使い方をします。このAB年次が同単元指導（二本案）の意味です。

学年によっては、4年生が5・6年生の複式学級に進級したとき、いきなり6年生の学習内容を実施するなど、先に上学年の内容を実施する場面が出てきます。留意点等を掲載してありますので確認してください。

キーワード9 同単元指導（一本案）

この一本案もよく聞かれる言葉です。AB年次と比べ、さらに年間計画の組み方が複雑になりますが、組み合わせの工夫次第で更に指導効果の上がる教育課程です。

ここでも、留意事項を参考に長所・短所をしっかりとつかんでください。

特に、転出入があったときには対応が難しいので、転出入の多い学校では十分配慮する必要があります。

また、北海道へき地教育研究所によると、北海道では国語や算数でもこのような同単元指導がよく取られていたようですが、最近では学年別指導をとる学校が増えているとのことです。

キーワード10 合同授業

へき地小規模校に赴任して学習指導を進めると、人数が少ないので、体育ではゲーム運動ができない。音楽では合奏ができないなど誰もが感じるでしょう。

そのため、時に学年という発想を変えてみると、合同授業の実践につながってくると思います。

キーワード11 集合学習

へき地複式校では、集合学習と呼ばれる、学校の枠を超えた学習も必要となります。ホームページでは5校の交流運動会の写真が掲載してあります。どの子ども達も生き生きとした表情で取り組んでいます。

普段では体験できない、多人数での経験は児童にとって、大切な活動です。ここで集合学習の重要なポイントを四つ述べます。

- ① 年間計画に位置付け、計画的に実施しましょう。
- ② イベントや行事中心にならないよう留意しましょう。
- ③ 体育や音楽以外の教科も年間計画をもとに取り入れてみましょう。
- ④ 集合学習での子ども同士のつながりを日々の授業に生かし、手紙の交換をする、メールのやりとりをするなど日々の交流を深めさせましょう。

(少人数学習を活性化させるために)

キーワード12 交流学習

集合学習の範囲をさらに広めた学習が交流学習です。ホームページに掲載している交流以外にも手紙での交流、インターネットでの交流など様々な交流が考えられます。

合同授業や集合学習、交流学習などは大規模校ではなかなか実施が難しい学習です。へき地小規模校だからこそ出来る学習を取り入れ、先進的な取り組みを工夫しましょう。

キーワード13 複式学級の学習指導課程

キーワード13からは、実際の学習指導方法にポイントをおいてあります。単式の学級以上に、学習のプロセスを常に念頭に置いた学習方法の展開が更に重要となります。

① 問題把握 → ② 課題追求 → ③ 解決・定着 → ④ 適用・発展
この四つの流れが基本ですが、それぞれの学校で工夫した学習活動を作り出すことも大切です。

例えば 学習過程 「つ よ い こ に」
つかむ → よそうする → いろいろに考え解く
→ こどもの力でまとめる → にた問題を解く

など、学校名とかキャッチフレーズのように作ると子ども達にも馴染み深いものになります。

キーワード14 一人学び・自己学習力

これまでの内容を通して、複式学級では単式学級に比べ一人で学習を進めなければならない時間が多く、自ら学ぶ力（自己学習力）が必要になることが理解できると思います。

それではどのような指導すればこの力がつくのでしょうか？そのために重要なことは学び方を知らせ、学習規律を学年始めに、しっかりとしつけることです。

参考資料 「学習のしつけ」を開いて印刷してください。ここで書かれていることはとても基本的なことですが、複式指導においてはこの部分が出来ていないと学習が成立しません。

参考資料 「学習展開のしつけ（高学年理科）」を見てください。理科を例にとっていますが、どの教科でも利用できると思います。

最後に、「学習の進め方（高学年用）」を見てください。この進め方は、子ども達で学習を進めるために、司会者が中心に学習を進めるように作成されたものです。このような学習の進め方を掲示したり、プリントにして常に児童に学習の進め方を意識させることが大切です。

司会の方法や掲示の方法は後で詳しく述べたいと思います。

キーワード15 ずらし・わたり

ここで説明する、「ずらし」や「わたり」が複式指導の難しさであり、面白さです。授業研究などででは、「わたりがどうだったか?」「ずらしの工夫ができていたか?」といったテーマで協議が進められることが多くあります。

それではホームページの参考例 複式授業指導案を開いて、印刷してください。

指導案を見てください。1・2年生の国語の指導案です。1年生は導入から始まる普通の内容です。ところが2年生を見てください。2年生は練習問題から始めています。

このように、学習活動を「ずらし」て仕組むことで、指導を効果的に進めようとしています。この方法を「ずらし」といいます。1年生に導入をした後は1年生へ学習内容を指示し、2年生へ学習の導入を行っています。

「ずらし」については、実践編の椋野小学校のずらしの例がありますので確認してください。

次に「わたり」について説明します。二つの学年を一人の教師が指導する訳ですから、学年を変えては指導にあたることになります。この際の教師の移動を「わたり」と呼びます。(動画ファイルを開いてわたりの様子を確認してください。)

教師のわたりが少ない授業は当然子どもたちが自ら学習を進めていることになり、複式指導では一般的によい授業とされます。

ここで重要なことは、児童にまかすポイントと、教師の出番をしっかりと把握することです。

しかし、全て子ども任せにしないで、指導するべき点はしっかり指導することは大変重要です。

キーワード16 ガイド学習

複式指導で子どもたちが自ら学習するするためにはどうすればよいのだろうか? これまで、多くの先生方が知恵を絞ってきました。その中で実践された一つの方法がガイド学習です。

児童が学習の案内役として、教師の指導のもとに立案された計画に従って学習する形態です。

内容的にも高度であり、綿密な計画とガイド役となる児童の育成が必要となります。

キーワード17 ガイドの役割・能力

ここでは、ガイドの役割・能力について詳しく述べています。大切なことは先程述べたように、児童に任せることと、教師の出番の見極めです。

ガイド学習は学年が上がるごとに高度になってきます。図にあるように、カードによる学習から討論中心の学習へ移行できることが理想です。

参考資料「ガイド育成系統表」を開いて印刷してください。1・2年 3・4年 5・6年と系統的に作成されています。

ここでは、この系統表のままに実践しなければならないという考えを持たないことが重要です。自分のクラスや学校の実態に合わせた系統表を工夫してみましょう。

1・2年のポイントはカード学習です。カードに本時の内容を記載し、そのカードに従って学習を進める方法をまず定着させることが大切です。

カード学習は、自ら学習を進めさせるために低学年のみでなく中・高学年でも有効ですので是非実践してみてください。

キーワード18 リーダー学習

リーダー学習は説明にあるように、ガイド学習の前段階指導と位置づけされています。そのため、リーダーは間接指導の進行役としての位置づけを持ちます。

他の学級や学校の授業を参観する場合の視点として、リーダーをどのように育成しているか？という見方で参観してください。

また、リーダーが一人に固定されていないかや、フォロアー（リーダーを手助けするサブリーダー的な児童）の役目が明確にされているか等についても参観してみましょう。

複式指導を充実させるポイントはリーダー育成にあると言っても過言ではありません。

キーワード19 学習リーダーの役割

学習リーダーの役割を明確にするために、参考資料「国語学習の手引き」「国語学習の進め方」を開き印刷してください。

「国語学習の手引き」では物語文教材の学習のしかたを例に記述しています。他の題材や他の教科で簡単な手引きを作成し、子どもたちに手引きを使った学習を工夫してみましょう。

「国語学習の進め方」では1時間の授業の流れをもとに、リーダーが司会進行できるように工夫してあります。

この方法が複式指導の最初の段階ですので是非実践してください。教師は1時間の授業の流れをもとに、例にあるような学習の進め方をもとに毎日実践することで複式の授業が見違えるほど充実します。

キーワード20 学習リーダーの育成

学習リーダーは一人の児童に固定する考えは捨ててください。ついつい、能力の高い児童に任せがちですが、多くの児童に経験させましょう。

全員がリーダーを経験することにより一人ひとりに学習の進め方の流れがわかり、クラス全体で自分たちの力で学習を進めていこうという雰囲気が出てきます。

失敗してもかまいません。何度も経験させることで全員がリーダーである自覚をつけさせましょう。

キーワード21 リーダー学習の展開例

学習リーダーの育成は、初期段階はキーワード19・20で述べたように基本的なパターンで繰り返し、全員に経験させてください。

それが軌道に乗るまで時間がかかるでしょうが、じっくり取り組んでください。

そして次の段階がキーワード21にある学習の展開例です。ここでは、児童の一人学びの時間や活動の時間を具体的に時間で示してあります。

このように、時間である程度目安を持たせることで意図的、計画的に学習を進めることが可能となります。反面、リーダーが時間ばかり気にして内容が深まらない場合もありますので、留意する必要があります。

また、授業風景の写真も掲載してありますが、教材文の提示や発表カードなど児童が学習しやすい学習環境作りも教師の重要な仕事です。

2 わかる授業を実践するために、教室環境を整えましょう。

(1) 机と黒板の配置をクリックしてみましょう。

ここでは大きく、3つのパターンを例示してあります。初めて複式学級を担当する先生は机の配置についても悩まれると思います。それぞれの配置のよさを確認しながら効果的な配置を工夫してください。

特に、黒板に注目してください。どうしても片方の学年は移動黒板を利用することが多く、大きな黒板を使う学年と差が出がちですので、学年の位置を変える工夫や、やや予算が伴いますが、大きな移動黒板を準備することも考えてください。

次の写真は、ある学校の移動黒板ですが、大きさや高さも工夫された黒板です。

この黒板の何が優れているのか予想してみてください。

☆この黒板の優れている点

幅も十分にとってあり、何より高さが工夫されているので、児童が利用しやすい移動黒板です。

また、多くのへき地複式校では空き教室等もあると思いますので、集中して学習させたい場合など、内容や教科により、教室を別々にして授業することも是非試してみてください。

(2) 掲示の中の「学習の足跡」をクリックしてみましょう。

単式学級においても複式学級においても、掲示として学習の足跡を教室に残すことは重要なことです。

写真①は国語の教材文を大きく拡大して掲示しています。学習の振り返りや話し合いを深める場面等でこのような掲示を利用してわかる授業を進めましょう。

写真②は日頃の学習の成果を後ろの黒板に掲示してある写真です。学習の足跡をしっかり残すよう、動きのある掲示に心がけてください。

写真③は小さな移動黒板に掲示した例です。児童の発表や学習の振り返りなど、工夫した掲示が必要となります。

(3) 掲示の中の「学習の進め方」をクリックしてみましょう。

この「学習の進め方」の掲示は複式指導を充実させるために重要な項目です。常に子ども達が学習の進め方を意識しながら学習できるよう掲示の工夫をしましょう。

写真①は、算数を例にした1時間の学習の進め方です。写真や発表の仕方などをうまくレイアウトしてあります。

写真②は、単元全体の学習内容を一覧表にしたものです。これからの学習予定や、本時のねらい、これまでの学習の足跡も振り返ることができるよい掲示です。

写真③は、黒板の学習の流れを掲示した例です。複式指導ではこのように、学習活動の流れが常にわかるようにする工夫が大切です。

次の写真のように、1時間の学習の流れをあらかじめ黒板に書いて学習を展開してみてください

ださい。児童はこれからどのような学習が展開されるかの流れをつかむことができます。リーダーも大きな流れで学習の指示ができます。毎日の授業で手軽に実践できますので是非試してください。

6年 国語の例

5年 算数の例

(4) 掲示の中の「学習の規律」をクリックしてみましょう。

学習の規律を指導することは、複式指導においても重要です。ここにあるように、「姿勢」「話し方・聞き方」「発表の仕方」「学習規律」「鉛筆の持ち方」「声の大きさ」などこれらの写真を参考にして、学級の学習規律を作成し常掲してみましょう。

また、市販の既製品の掲示ではなく、「話し方・聞き方」「発表の仕方」にあるように、クラスの児童を利用して発表方法や良い姿勢等を掲示すれば、効果的な掲示になります。

3 わかる授業を実践するために、教育機器を利用しましょう。

(1) 機器の利用 「実物投影機」をクリックしてみましょう。

複式指導では子ども達同士で発表する機会が多くあります。その発表機器としてパソコンのプレゼン等がすぐに連想されると思いますが、複式指導で意外と役に立つ機器が実物投影機です。

実物投影機のメリットと活用場面

<メリット>

- ① 準備が簡単で毎日の学習に活用できる。
- ② 低学年の児童にも簡単に利用できる。
- ③ ノートや資料等をそのままテレビに写すことができる。

<活用場面>

- ① 教師が資料を提示したり、実物を提示する場合に有効である。
(直接指導時)
- ② 児童がノートをもとに、友達に説明する場合に活用できる(間接指導時)
- ③ 児童が資料集の写真をもとに、クイズ等を作ることができる。
(学習を深める場合)

(2) 機器の利用 「OHP」をクリックしましょう。

今では活用が少なくなってきましたが、「OHP」などは複式学級において大変有効な教材の提示機器です。

教材室等に眠っている、「OHP」を探して、是非子ども達に利用させてみてください。「OHP」の思わぬ利用法が発見されると思います。

(3) 機器の利用 「電子黒板」をクリックしてみましょう。

電子黒板は、電子黒板とも呼ばれプロジェクタとパソコンを電子黒板に連動させ、電子黒板にタッチすることでパソコンをコントロールできる優れた機器です。言葉ではイメージがつかみにくいので、実際の活用場面をみてみましょう。

利用方法「英語」をクリックしてください。パソコンから英語の単語がランダムに発音されています。その単語を聞きながら、当てはまるものをタッチしていくゲームです。タッチすることで正誤判定をしています。

次の例が、「計算練習」の場面です。画面に提示される、問題をゲーム的に答えて

いくゲームです。

最後の例は、「地図学習」の様子です。県名が地図に表示され、それに対応する県名をタッチしていくゲームです。

ここで紹介したものは、ドリル的なゲームですが、この他にも児童が発表の道具として利用したり、教材文をスキャンして活用するなど、教師の説明の道具として活用方法は無限に広がります。

(4) 機器の利用 「パソコン」をクリックしましょう。

今では、どの学校にも導入されているパソコンです。へき地複式校では大きく次の利用方法が考えられます。

パソコン利用場面

- ① インターネットを利用した調べ学習
- ② インターネットを利用した、交流学习（テレビ会議 メール交換）
- ③ 授業でのプレゼンの道具としての活用
- ④ 基礎学力の定着（ドリルによる計算等の習熟）
- ⑤ 文章作成の道具としての活用
- ⑥ デジカメで撮影した写真の整理と加工
- ⑦ 動画データの編集と加工

特にへき地複式校では、交流学习（テレビ会議）や発表の道具としての利用方法、基礎学力の定着等の 場面において力を発揮します。

パソコンをインターネットの検索のみに利用するのではなく、幅広い活用方法を考えましょう。

(5) 機器の利用 「携帯用ゲーム機」をクリックしましょう。

今、話題となっている携帯用ゲーム機は音声認識や文字認識等の優れた機能を持っているので、ゲーム機として利用するにはもったいない気がします。

最近では、計算練習や音読など教育の中で活用できるソフトが数多く出ていますので学習用機器として十分活用できます。

(携帯用ゲーム機のメリット)

- ① 機器のある部屋に移動する必要がない。
- ② 起動も早く、朝の少しの時間でも有効に活用できる。
- ③ 安価で、購入できるため少人数学級では児童一人ひとりで活用できる。

(活用場面・教科)

- ① 朝のドリルタイム (算数 国語 社会)
- ② 授業中での補完
- ③ 通信機能 (チャット等) を利用した国語学習等

言葉ではイメージがつかみにくいので、実際の利用方法を動画ファイルで見てください。

① 機器準備場面

児童が専用ケースに入れたゲーム機を机に運んで学習の開始です。この際、自由にゲーム機を扱わせるのではなく、ルールを決め学習に利用していることをはっきりと認識させることが重要です。

② 練習風景1 練習風景2

このように、直接ペンで答えを記入するため普通の学習のスタイルとほとんど変わらないため、学校では利用しやすいです。速さと、正確さを常に意識させることが重要です。

③ 結果記録画面

ここで大切なことは、ゲームをやりっぱなしにしないことです。成績を記録する紙に記入させ、振り返る時間をとることが大切です。

実際の活用例には本町の学校の実践が紹介されています。ここでは計算練習の例が掲載されていますが、他の研究推進校では音読の練習や他のソフトを活用した事例もあります。

また、計算練習時に利用したチャレンジカードもありますので参考にしてください。

4 わかる授業を実践するために、発表用具を工夫しましょう。

(1) 発表プレート等の活用

児童が自分たちで学習を進め、効果的に発表させるために、児童が使う発表用具を準備しておきましょう。

児童の発表補助で利用するもの、教師の説明で利用するもの、学習過程を表示するものなど、ここで紹介してあるもの他にも日々の実践の中で工夫して作ってみましょう。

(2) 発表ボードの活用

間接指導時において、子ども同士で発表する場面が多くあります。そのとき教師が発表場面に直接つけない場合も多いので、発表ボード等を工夫する必要があります。

ここで紹介しているのが、小さなホワイトボードを利用した方法です。この他にも小黒板や画用紙等を利用する方法がありますので工夫してください。

5 研究推進委員の実践編を参考にしてわかる授業を目指しましょう。

このコンテンツは、本研究の研究推進委員の実践や工夫を集めたものです。それぞれの取組はどれも素晴らしいものです。是非参考にしてください。

沖浦小学校の実践から学ぶもの

一人学びと共学びの位置付けの明確化と手だての工夫を参考にしましょう。

※ 共学びの視点が明確にされ、児童がその視点をもとに学習を展開できるよう工夫されています。どう学習を進めればよいかの視点を常に明確にしながらか手だてを工夫しましょう。

また、資料にある、「スケッチしたいこと」「スケッチ」「スピーチ原稿」など、子ども達が一人で学習できるプリント類を丁寧に準備しましょう。

少人数の特徴を生かし、デジカメなどを学習の道具として積極的に利用させています、一人一台の環境を整え一人学びを充実させましょう。

島中小学校の実践から学ぶもの

異学年交流の実践を参考にしましょう。

※ 少人数学級において、学級の人数が少ないと意見の交流等が深まりにくいのが現状です。そこで、島中小学校では学習過程を工夫し、同単元同課題異教材の授業を仕組んでいます。

このような授業を計画するには進度等の年間計画の調整、日々の時間の調整等いろいろな難しい面がありますが、一度は挑戦してみたい内容です。

また、異学年が交流することにより、上学年と下学年の交流ができそれぞれの学年の良さを生かすことができます。しかも異学年のペア学習で個を生かす活動にも着目してください。

屋代小学校の実践から学ぶもの

間接指導における一人学びの工夫を参考にしましょう。

※ この実践では間接指導時において、一人学びを効果的なものにするため、ワークシートや電子黒板を活用しています。

特に電子黒板に注目してみましょう。この実践では発表の道具としており、ノートに書いた内容をスキャナに取り込んで発表したり、教材文を電子黒板に写して一人学びの充実を図っています。

また、ワークシートでは一人学びがより深まるプリントを準備し間接指導を充実させている点も大いに参考になります。

油田小学校の実践から学ぶもの

リーダー学習の導入方法について参考にしましょう。

※ この実践では初めて複式学級を担当した研究委員の先生が、日々研究しながら、複式指導を充実させてきた歩みが綴られています。

実践編にもあるように、①学習規律の指導 → ②学習の進め方（リーダー学習） → ③授業内容の工夫というプロセスで、わかる授業を展開しています。しかも、この実践は1・2年生の実践です。低学年もここまで成長します。このように、低学年の複式指導の入門期からの実践を通して、進級後も抵抗なく自ら学ぶ学習を進めることができます。

棕野小学校の実践から学ぶもの

ずらしの仕組み方を参考にしましょう。

※ 複式指導のポイント「ずらし」にポイントを絞った実践です。単式で培った学習過程を参考にしながら、複式独自の指導過程を考えましょう。

この実践では、学習の流れをまとめから入ったり、練習問題から入ったり話し合い活動から入ったりするなど様々な工夫が見られます。

自分の学年や学習内容を考慮しながら、ダイナミックなずらしも実践してみてください。

情島小学校の実践から学ぶもの

学びの場の工夫を参考にしましょう。

※ 情島小学校の実践には、学びの場の工夫のすべての要素が盛り込まれています。導入段階では、3年生と4年生が共通の教材を通して学習に取り組む導入場面の工夫がなされています。

学びの場として、参考にしてほしい点が学習コーナーの充実です。算数コーナーには、これまでの学習の足跡、既習学年の教科書、様々な模型や算数セットなどが準備されており、児童が学習につまずいた時などもう一度立ち返る場面が準備されています。

この実践には複式指導を改善できるエッセンスが詰まっていますので是非参考にしてください。

6 実践例、指導案を参考にわかる授業を目指しましょう。

指導案集をクリックしてください。本町の先生方が作成した21本の指導案を掲載しています。

21枚の指導案を印刷して、ファイルに綴じましょう。それを順番に見てください、先生方の工夫や学ぶべき点が多くつまっています。

それぞれの指導案にはアピールポイントが掲載されています。そのアピールポイントを念頭において指導案を見てください。それぞれの指導の意図が明確に理解できると思います。

7 おわりに（さらに複式指導を充実させるためには・・・）

少人数学級でいかに多様な意見にふれさせ、学習を深めさせるかが、これまでの研究会等で常に協議題にあがり、へき地複式教育の永遠のテーマとなっています。

では、どのように指導すればよいのでしょうか？

多様な意見にふれさせると言っても、2名しかいない学級は2名の意見しかでないのです。教室の中を見渡してください。そこには、上学年か下学年の児童がいます。これらの子ども達を学習に参加させましょう。それから、先生がいますね。先生一人で、いろいろなキャラクタに変身してみてもはどうでしょうか？人形を使う手もあります。手紙を使う手もあります。

また、集合学習で知り合った他の学校の児童はいませんか？集合学習だけでなく、日々の学習を充実させるために、意見の交換をしましょう。他の学校の児童も多様な考えを求めていることと思います。

多様な意見に触れさせ学習を深める方法は無限にあります。皆さんの工夫により日々の素晴らしい複式授業が展開されることを期待しています。

そこでこのホームページとガイドブックが少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。